

平成 30 年度第 2 回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2 階大会議室

H31.2.27 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 議事

①口腔保健支援センター事業について（報告）

事務局より説明

質問はなし

【宮川会長】

医歯薬連携事業は高知市より委託を受けて取り組んでいる。

医師会の高崎委員，薬剤師会の寺尾委員にもご協力をいただいているが，今年度の取組についてももう少し詳しく歯科医師会の田岡委員より報告をお願いしたい。

【田岡委員】

平成 30 年度の医歯薬連携推進事業は，9 月 29 日に松山市で開業されている西田互糖尿病内科の西田互先生を講師に歯周病と全身疾患のかかわりについてと医歯薬連携の重要性についてご講演をいただき，講演後のアンケートでは，ほとんどすべての方が理解ができたと答えてくれていた。

また昨年春の診療報酬の改定で，歯科から医科に発信し，患者さんの全身疾患の情報について情報を共有するという診療情報連携共有料が新設された。新しい点数のため，医科歯科の先生方に内容を周知する文書の作成や，高崎先生のご協力で医科の先生方が返信しやすい様式を作成した。来月には医科，歯科の各医院に送付する予定である。

なかなか一足飛びにはいかないが，4 年間携わってきて，医歯薬連携の重要性については関係者間にも徐々に浸透しはじめてきたと思う。今後も継続して取り組んでいきたいと思う。

【宮川会長】

高崎委員，寺尾委員もご意見ご感想をお願いしたい。

【高崎委員】

医師会のほうではあまり医歯薬連携推進事業が伝達されていないので，診療情報連携

共有料についてもフォーマットができれば医師会報にも載せて周知していきたい。周知がきちんとできれば広まっていくと思う。

【寺尾委員】

医歯薬連携ということでいろいろな取組があるが、薬のことでいえばジェネリックの取組等も含めて連携が強まっていると思うので今後も連携をお願いしたい。

【宮川会長】

この事業に関して、他の委員のみなさまもご質問やご意見はないか。

【植田委員】

今年度研修会の講師の西田先生は全国的にも有名で他県でも講師を依頼している先生だが、今回の研修会は、歯科衛生士会の会員に周知ができていなかったもので、平成31年度の研修では、企画段階で詳細を教えていただけたら、歯科衛生士会員にも周知をしていきたい。

【宮川会長】

来年度は周知させていただく。

②今後の取組について

事務局より説明

【宮川会長】

健康づくり計画に基づいた今後の取組について説明があったが、幼児期・学童期の取組の目標として「12歳児のむし歯のあるものの割合を減らしていく」「中学生の歯肉に所見のあるものの割合を減らしていく」ということだった。むし歯の減少については、フッ化物洗口の取組になるが、この検討会でもいろいろとご意見をいただき、今年度は新たに保育所、幼稚園が8箇所開始し全部で30箇所、小学校では2校が開始し7校、中学校では2校の実施となっている。実施施設の増加に伴い、永久歯のむし歯本数は少なくなっている。ただ、県下で見ると、高知市以外の市町村では、かなり実施が進んできているという報告もあったが、高知市としては、ただ実施施設を増やすというよりは、保育園から小学校と継続した取組ができるような働きかけを目指していくということだった。

まず、保育園から小学校と継続したフッ化物洗口の取組が実施できるような働きかけについて保育園、学校の状況からお聞きしたい。

【中山委員】

一宮・布師田地区は連携が取れていて、一宮中学校区の小学校はすべて開始し、保育園も実施ができています。まだ取組ができていない地域も多いので、行政のほうも粘り強く啓発に取り組んでほしい。また 2020 年からは小学校のほうも学習指導要領も変わり、保幼小連携についてももっと進んでいくのではないかと考えている。

取り組めていない保育園に話をすると、園はやりたくても園歯科医が協力的でないところもあるようなので、園の希望に沿えるようにご協力をお願いしたい。

【宮川委員】

フッ化物洗口を勧めている歯科医師会なので、いろいろな考え方の先生もいるが、歯科医師会の中でも積極的に話を進めて、会の中でも伝達するようにしていきたい。

【吉井委員】

保幼小の連携については、いろいろな取組を行っている。フッ化物洗口のことについてと絞ったテーマの検討をしたことはないが、泉野小ではフッ化物洗口が昨年始まったので、校区の保育園に通われている方は、保育園から小学校と継続して実施することができるため、取組についてもっと周知していければと思っている。小学校ではまだまだ実施施設数は少ないため、行政の力も借り、小学校のほうも理解を示しながら取り組んでいかなければいけないと思っている。

本校のほうでも慎重派の職員もいて、成果はいつごろ出るのか？効果はあるのか？などの意見もあったが、過去の他市町村のデータを含め行政のほうから説明してもらい、ある一定職員の中でも理解が得られ開始に至った。何年か後には泉野小の効果がデータとして出せるのではないかと考えている。

【宮川会長】

お二人の委員からご意見をを受けて学校歯科医・園の歯科医の立場としてどうか？

【田岡委員】

フッ化物洗口については周知活動が必要だと思う。

先ほどのご意見にあったように、園医や学校歯科医が反対してはいけいないので、歯科医師会のほうで会員への周知を行っていくことが必要だ。

昨年 11 月に学校医、校長、養護教諭が集まる会でフッ化物洗口について説明する機会があったが、懇親会の中で、自分が学校歯科医をしている学校の校長や養護教諭が「ぜひ検討したい」と話があったが、後日養護教諭から連絡があり、「実際はやっぱり難しい」とのことであった。

歯科医師会の理事で意見交換したときに、学校の中でなかなか調整が難しいようであ

れば、例えば、保護者に話をしてみたらどうか、保護者向けのアンケートで実態把握をしてみたらどうか、リーフレット等を配布していろいろなところで啓発することも必要ではないか、などの意見があった。今後いろいろなところへアプローチをしていくことが必要ではないかと思う。

【宮川委員】

保護者のほうへという話もあったが、前田委員、そういった話ができる場があるかどうか教えてほしい。

【前田委員】

高知市が進んでいない理由がわからない。学校で広めていくには教育委員会の承諾がいるのではないかと。学校だけで進めていくのは難しいのではないかと。保護者には、フッ化物洗口がいいですよということをもっと周知していければいいのではないかと。思う。

【宮川会長】

なかなか一律に進まない原因としては、昔、県外で水道水にフッ素が混ざっていて、過剰に摂りすぎたことによる斑状歯が起きたことがあり、養護教諭や保護者等でも、フッ素に対する意見が分かれていることがある。学校の中で、フッ化物洗口を希望する子としない子が出た場合、希望しない子が集団の場でみなと同じことができないといった違う立場に置かれることも問題になると聞いたことがある。

また市内は児童数が多いため、うがい後に流しを使う場合は、流しの数が足りなかったり、人数が多いためなかなか学校全体の意思統一が難しかったりということもあると思う。

【吉井委員】

本校の場合は、蛇口は少ないが、フッ化物洗口そのものは教室の中で実施していて、各自がコップを持っているので、音楽に合わせて洗口を行ったら自分のコップに吐き出し、その後コップを洗う時に流しを使うがやることは特に問題はない。

あとは、保護者の方にも説明をして、やらない子は水と一緒にうがいを実施するので、やらない子に対しても問題はない。

養護教諭が前日に実施クラス分の準備をするのが大変ということはある。

今後の課題としては、歯みがきとセットにしてフッ化物洗口を実施することを検討している。歯みがきについては蛇口の問題も出てくるが、より効果的にやるために今後取り組めたらと思っている。

【前田委員】

給食が終わった後に、各自が順番に歯みがきをすればいいのではないと思う。
自分の歯ブラシとコップを持っていけば、そんなに難しいことではないと思う。

【宮川会長】

実施している学校を参考に取組を広めていけるように学校歯科医の立場としても取り組んでいきたいと思う。

【植田委員】

歯科衛生士が園や学校に歯みがき指導を行うなかで、園の指導では保護者の方も一緒に聞いていただけることがあるので、ブラッシングのことだけでなく、フッ素のことについてもふれるようにしている。保護者の方への周知を今後も続けていきたい。

また、イオン等のイベントの中で、たくさんの市民の方と関わる機会があるが、情報社会なので、詳しい保護者の方もたくさんいて、定期的に歯科医院でフッ素塗布をしているとか家庭でフッ素洗口をしているという話を聞くことが増えてきた。イベントには意識が高い方が来ているので一般的に確かな数ではないかもしれないが、年々フッ素を活用している方は増えてきていると感じている。

【大野委員】

学園短大の学生は、高知市内の保育園 16 園に指導に行っているが、保護者参観日等に合わせてフッ素入り歯みがき剤のことについては啓発を行っている。今後、行政の方にも相談させてもらいながら考えていきたいと思う。

【宮川会長】

保育幼稚園課の状況について教えてほしい

【保育幼稚園課】

フッ化物洗口については、園によって認識の温度差がある。トップダウンで取組んだら進むのではという意見もあるが、そうなるという課題もでてくる。保育士は今、世代交代の時期で、みなが勉強していかないといけないという課題もある。

フッ化物洗口については、公立で取組んでいる園が少しずつ増えてきている。保育士の研修で、実際にフッ化物洗口の取組を見学する機会もできており、具体的に学ぶことができているため認識が広がってきていると思う。現場の不安感や負担感を除きながら、保護者の方の理解も得ながら少しずつ取り組んでいきたいと思っている。

【宮川会長】

教育環境支援課の状況について教えてほしい

【教育環境支援課】

学校のフッ化物洗口について、教育委員会としては全面的に推進を支援するという立場で取り組んでいる。学校や地域の実情、考え方等それぞれあるため、一旦始まった学校でも休止になっているところもある。そういう実態や課題も踏まえながら、現場の不安感の解消、また保護者の方も心配なくフッ化物洗口をやってよかったという取組にしていきたい。

昨年度、高知市歯科医師会と高知市でフッ化物洗口のマニュアルを作成したが、マニュアルの周知はしているが、活用までは広がっていないため、情報共有しながら進めていきたいと思っている。

【宮川会長】

フッ化物洗口は、ずっとこの会で検討をしてきているが、なかなか一足飛びには進まないため、各団体のみなさまにもご協力いただきながら進めていきたいと思っている。

【宮川会長】

続いて、中学生の歯肉炎を減少させるための取組について検討していきたい。

小学校高学年から中学校にかけて歯肉炎が増えており、歯肉炎予防のためには、歯みがきが大切である。現在は、学園短大のご協力で、学校での歯肉炎予防の学習も今年度は小学校32校、中学校8校、歯みがき大会は6校と、取組が毎年広がっている。

食育に関するアンケート調査の報告でも、いずれかの指導を経験した児童は、歯肉からの出血があるものが少ない、という結果もでていた。歯みがきについては継続した取組が必要で、これからも学園短大の取組を続けていってほしい。併せて、よく噛むことや口呼吸の対策についてもこれから考えなければいけない課題となっている。

資料にある“ゆっくりよくかんで食事する人の割合”を増やしていくためにも、子どもたちからのよく噛むことや口呼吸の対策が必要で、歯肉炎予防とつながっている部分があるので、併せてご意見をお伺いしたい。

【宮川会長】

最初に、歯肉炎予防の取組を行っている学園短大からご意見をお願いしたい。

【大野委員】

今年度、歯みがき指導の中で、あいうべ体操にも取り組んできた。子どもたちは元気

よく口を動かし行ってくれてよかった。歯肉炎予防につながるための歯みがきまでの一連の流れが少し弱いと思うので、今年度はもう少し考えて取り組んでいこうと考えている。

【宮川会長】

保育園や学校としてはどうか。

【中山委員】

自園は、フッ化物洗口と歯みがきについて取り組んでいる。子どもたちは、環境というより習慣で、大人がいろいろ言わなくても習慣づければ主体的に歯みがきをしてフッ化物洗口をして、あいうべ体操も部屋にちらしを貼っているが自主的に取り組んでいる。そんなに難しいことではないと思っている。保育園でやっていればスムーズにできるのではないか。また園長会のほうでも、年に1回は研修会を行いたいと思っている。

【吉井委員】

よくかむことや歯みがきの習慣については、学校だけでは徹底できないところがあるので、家庭への周知、働きかけが必要になってくると思う。本校では保健だより等で、歯科保健についてお伝えすることや、歯科健診の時に学校歯科医の先生から個人的に指導があった児童については、家庭に直接返しているが、治療に行かない児童や、関心を示していない、治療に行っていない家庭もある。現状を家庭にも伝えて、家庭の協力をぜひ願いたい。

よくかむことについては、小学校では学校栄養職員、栄養教諭が給食のときに各学級で指導を行っている。中学校でも学校給食が始まった関係で栄養教諭の配置が増えてきているので、給食指導と一緒に、かむこと、バランスについてなど指導する機会を作り、生徒自身に分かってもらうことからはじめてみたらいいのではないかと思う。小学校のほうでも指導した時には意識が高まるが継続しないため、たえず働きかけがいると思う。

【田岡委員】

歯肉炎、口呼吸、歯みがきのことなどについては、学校歯科医が、学校や保護者に周知できるように活動していかなければいけないと考えている。学短の学生の指導で成果が出たという結果等を報告し広げていくことが必要ではないかと思う。

学校での歯みがきの実施については、学校の時間割の中で、この時間は歯みがきの時間というように決めることで実施できるのではないか。学校ごとに任せるというより、トップダウン的な働きかけも必要ではないかという意見が歯科医師会の中では出ていた。

【植田委員】

中学校になると、部活動等が忙しく、歯科医院に行く時間もなく、仕上げみがきからも離れていき、親にも口の中を見せることがなくなっていく時期になるため、特に保護者への周知が重要になってくる。長期休暇の時期には、歯科医院を受診することの啓発も大切であり、受診したときには、歯科衛生士のほうから歯肉炎予防の大切さを本人や保護者に伝えることが必要なため、歯科衛生士会でも伝え方やコミュニケーションの取り方等の研修会もやっていけたらと考えている。

【高崎委員】

小児科医、内科医の間でも、歯科疾患と全身疾患との関連についてはあまり意識されていない状況で、最近言われはじめた歯周病との関連について徐々に普及しはじめたところであるため、歯科医師会のほうから、医師会向けの講演会等を実施してもらいたい。

【寺尾委員】

テレビでよくやっているような使用前、使用後のように、取組の効果を伝えていけば広がっていくのではないか。食後の歯みがきは、特に子どもころからの習慣になってくるので、習慣づいていれば大人になっても誰に言われなくても実施するものではないか。職場のスタッフも昼食後はみな歯をみがいている。

学校で集団での取組が行われたら、子どもは素直なのですぐに実施できるのではないかと思う。

学校薬剤師会に対しても、歯科医師会の先生方を講師に、歯周病と全身疾患との関連について研修会等実施していただければ広がっていくと思う。

【宮川会長】

中学校も給食がはじまっているが、保護者の方の反応はどうか。

【前田委員】

中学校の学校給食は保護者からははじまってよかったという意見をよく聞く。

自分の子どもも中学生で、この検討会に来るようになってから、子どもが歯みがきをしているか気にするようになった。

保護者から声をかけるようにし、子どもに習慣づけることが必要だと思う。

【上原委員】

中学校給食についてはあまり聞くことがないのでわからないが、歯みがきについて、子どもの時の習慣は身についたら一生抜けないものであると思うので、学校での歯みがきが習慣づくのはいいと思う。

以前の検討会で、四国内の学校での歯みがきの取組について報告があったが、松山市では小学校は全校で100%歯みがきをしているという報告もあったので、高知市もそのようになればいいと思う。

また、歯周病と全身疾患の関連については、保健指導の場でも浸透させていければと思う。

【宮川会長】

続いて、今までの意見と重なるところもあるが、歯周病と全身疾患への影響の周知度向上のための取組について、糖尿病、早産・低体重児出産、肺炎についての周知度がまだまだ低い現状がある。医科と歯科の医療連携の必要性についても報告があったが、それぞれの立場からまたご意見を伺いたい。

また、来年度の事業で、40歳、50歳対象の成人歯周病検診が始まるため、PRでご協力いただけることがあったらお願いしたい。

【高崎委員】

今年度始まった診療情報連携共有料については、知っている医師はほとんどいなかったため、前回の検討会の後に、医師会報に周知の記事を書かせてもらった。知っている医師が増えてきたと思うため、これからは活発に情報共有できていくと思う。

今後は、歯科医師側からどんどん開業医、病院宛にこういう情報がほしいと言ってもらえたら、医師側からもお返事をさせてもらうので、お互いに連携しながら取り組んでいきたいと思っている。

【宮川会長】

今までも診療情報提供料はあったが、今回の診療情報連携共有料は新設された保険点数で、歯科から医科への診療情報の提供をするというものである。歯科側からどんどん連絡をさせていただきたいと思っている。

【植田委員】

今年度も歯科医師会や薬剤師会主催のイベント等で歯科衛生士会もコーナーをもたせてもらい、歯科衛生士の立場から全身と口腔の関係性についてや日々の口腔衛生や口の機能等について普及啓発を行っているので続けていきたい。

市民の方はかなりいろいろ情報を持っているので、歯科衛生士がきちんと対応できるように会員向けの勉強会等は行っていきたいと考えている。

【上原委員】

今年度、高知市の上田歯科医師に2回講師をお願いし、1回目は夏に、事業所の事業主や健康診断の担当者を対象に行った職場の健康づくり応援研修会で、もう1回は秋に、年金事務所と協会けんぽが合同で実施した研修会で、それぞれ、歯周病と全身疾患についてのお話をしてもらった。終了後のアンケートで歯周病対策をやっていかないといけないと思ったという意見が多数あった。その後のフォローができていないので、今後確認していきたいと思う。

また、最近、働き盛りの世代が減っていると言われていいる中で、特に中小零細企業では人手不足が問題となっていて、従業員の健康が重要な経営資源ということで、協会けんぽでは健康経営に力を入れている。その中で、各企業に「健康企業宣言」をしてもらい、健康経営を目指してもらう取組を行っているが、現在340社が宣言をしている。共通指標としては健診受診や保健指導等になるが、選択指標の中にいろいろ選ぶ項目があるが、その中にお口の健康は入っていないので、今後項目に入れることができないか検討していきたいと思っている。全国的に統一するという動きになっているのでどこまで意見が通るかはわからないが調整していきたいと思っている。

40歳 50歳の成人歯周病検診について具体的に教えてほしい。

【健康増進課】

来年度の新規事業で、県下統一で広域の歯科医療機関で個別に受けってもらう歯科検診である。

国の健康増進事業の補助事業であり、節目の年齢で受けると補助を受けられる検診のため、高知市では、働き盛りのかかりつけの歯科医がいない年度内に40歳、50歳になる方を対象に、年に1回受けられる。今、実施が決まったばかりの状況で準備を進めている。また、母子保健課のほうの事業になるが、妊婦歯科健診も県の事業で実施していたが、来年度からは市の事業で実施をし、母子健康手帳発行時に受診票をお渡しする。

両方とも、県の健康パスポートのピンクシールの対象になる予定である。

40歳、50歳については、実施期間等も調整中であり、周知のチラシ等も作成予定であるが、企業等で保健指導の機会などに周知のご協力をお願いしたい。

【宮川会長】

若い世代である学園短大の学生で、歯科衛生専攻以外の学生にも、歯周病等について啓発する機会はあるか。

【大野委員】

全学科が共通の教科がありその中で健康教育の演習があり、子どもや高齢者をテーマに学習する機会がある。その中でむし歯や歯周病についても学習するため伝えていきたい。

いと思う。

また、歯科衛生専攻の学生が、高知市の企業に指導を行っているが、今年度は細菌カウンタで口腔内の細菌の数を測定し、動機づけを行い、高知市歯科医師会が作成した歯周病のパンフを配布した。併せて歯みがき指導や、口腔機能向上については吹き矢を使った指導を行った。また、来年度も実施する機会があれば、40歳、50歳の歯科検診についても周知ができる。

【田岡委員】

来年度、医歯薬連携で検討していきたいと思うのが、高崎委員から、全身疾患と歯科疾患の関連について、医師の認知度が低いというご意見もあったので、医師を対象にした研修会を実施したいと思っている。

また、ゆっくりかんで食べる、口腔機能の発育等については、子どものころからの周知が必要だと考える。保育園等の歯科健診等でも保護者へ周知していくことが大切だと思う。また、妊婦のころからの周知も必要でそのためには、ツールも必要であるため併せて検討していきたいと思う。

【上原委員】

働き盛りの健康ということで糖尿病とたばこについて等、協会けんぽでも保健師が保健指導を行っているがなかなか聞いてくれないこともある。医師や歯科医師から言ってもらえると説得力があるので、ぜひ、医科歯科の医療連携については期待をしている。

【宮川会長】

高崎委員、禁煙外来について教えてほしい。

【高崎委員】

禁煙外来については、紹介もしているが、なかなかつながらないことが多い。

自院でも、喫煙のことや歯周病と生活習慣病については必ず説明はしているが、知らない方が多く、一般の人にはあまり認知されていないように感じている。

市民向けのフォーラムや講演会等も必要でないかと思う。

【宮川会長】

医歯薬連携を強化し、また市民の意識を向上していくためにも、保育園や、小学校、中学校等でも地道に普及啓発を行っていくことが必要だと感じている。

委員のみなさんの立場でも今後もいろいろご協力をお願いしたい。

何かあれば、歯科医師会や、高知市のほうに言ってきていただけたらと思う。

閉 会

事務局より連絡事項

来年度は9月に実施予定